

# 第 485 回 番 組 審 議 会

1. 日 時 2013 年 4 月 16 日 (火) 午後 1 時 30 分～
2. 開催場所 テレビ岩手 6 階大会議室
3. 委員総数 12 名

## 出席委員 11 名

委 員 長	望月 善次
副 委 員 長	福田 泰司
委 員	坂本 修
委 員	柴田 和子
委 員	池田 克典
委 員	吉江 信博
委 員	鈴木 正之
委 員	遠藤 雅也
委 員	國分 正人
委 員	村川 健一
委 員	千葉 隆史

## 欠席委員 1 名

委 員	平 英一
-----	------

社 側 出 席 者	檜崎 憲二 (代表取締役社長)
	山口 英二 (常務取締役)
	淵沢 行則 (取締役報道制作局長)
	野田喜代志 (報道制作局次長)
	桑島 広実 (報道制作局制作部副部長)

事 務 局	遠藤 隆 (編成技術局長)
	平井 直子 (編成技術局編成部副部長)

#### 4. 議 題

1. 2013年3月31日(日) 22:56~23:26 「夢・見る・ピノキオ」
2. その他

#### 5. 意 見

##### 委員側意見

○ 沿岸の食堂を巡ってたくさんの海の幸、和菓子も含めて紹介。番組に艶がある。食材の新鮮さをいっそう引き立てている。ライティングがうまい。天気が良かったし、昼の陽光を浴びているシーンが多かった。それはそれで食べものが光り輝く、食べたいと思わせる力を感じた。明るくて穏やかな海岸。食べ物をおいしそうに見せていた。復興支援という見方で働いている人、笑顔で食べているのを紹介し浜の復興が一步、二歩と進んでいることを印象づけた。番組の最後に取材した店の店主を改めて紹介して、店主らは視聴者に頭を下げていた。そのシーンはなじみの客からの励ましに対する感謝。食材への感謝。決して恥ずかしいものは出していないというプライドも意志表示している。店主らの誠実な人柄も伝わってきた。

○ ピノキオはよく見ている。一週間のクールダウンによい。内陸から行くと場所がわかりにくいので店を紹介する簡単な地図があればいい。

○ 情報募集などもしているようだが、情報は来ているのか？店の選び方も教えてほしい。

○ ラーメンが多かったように思った。この旅がその土地の応援になればという冒頭のナレーションは良かった。

○ 番組全体が沿岸北部というくくり方だった。北部の震災後の様子はあまり紹介されていないので時宜を得た番組だった。食材の収穫の風景、魅力にあふれている。タレントが一口食べて感想を言うのではなくてこの番組は食べ物が主役で良い。

○ 家に帰ってゆっくりする時間に始まるので好きな番組。あすへのお品書きと言うタイトルはすばらしい。ぐっとくる。人情や暖かみ、感謝の気持ちにあふれている。紹介された6軒の店すべてに行ってみたい

○ 通常はオープニングとともにうきうきした気分になる番組。今回は震災から2年がたって、食で復興を応援したいというテーマなので構えてみた。震災の悲惨さはあまり紹介されていなかったが、田老の周辺の映像を紹介していた。企画の趣旨と番組のテイストが上手に表現されていた。紹介された店の状況はそれぞれ違うだろう。海の幸が多かったが、知らない海草も紹介されていた。春の訪れを感じさせるメニューだった。

##### テレビ岩手側意見

○ 3月のラインナップを考えた時、「ピノキオ」は報道とは違うオリジナリティがあって良いと思った。北部と南部で2週に分ける。田老の「大将」という店を紹介してほしいと地元の人からメールをもらった。復活した店をPRしたいのだろうと思った。そのメールから番組がスタートした。番組のテイストを生かしながら視聴者に何かを感じてほしいと思って制作した。今回の取材は3日間。天気が良かったのは1日だけ。天気が良い日に各地の風景を撮った。普代や田老などの被災した当初の映像はあったが、被災地の今を伝え

ようと今回撮影した映像を大事にした。どこも海鮮ラーメンが名物という店が多かったの  
でラーメンの紹介が多くなってしまった。